学校だより

令和７年度　１０月号
令和７年　１０月１日
さいたま市立大谷口中学校

［学校教育目標］かしこく　美しく　たくましく

実りある秋を

校長　髙村　昌利

まだまだ暑さの残る日々もありますが、朝夕はひんやりとした空気が漂い、校庭の木々も少しずつ色づき始め、秋の深まりを感じています。私は北海道で生まれ育ったため、この時期になると空気の匂いから「そろそろ雪が降りそうだな」と感じたものです。雪の訪れを楽しみにウキウキしていた記憶もあり、秋にはワクワク感と少し切ない気持ちが入り混じる、特別な魅力を感じています。今では、さいたま市での生活が長くなり、北海道のような空気の匂いを感じることは少なくなりましたが、気温が下がり、ひんやりとした空気に包まれると、どこか心がくすぐられるような気持ちになります。これも、私にとっての 10 月の魅力のひとつです。中学生という多感な時期に、季節の空気を感じ取ってほしいと、生徒たちにも願っています。

学校では、子どもたちの元気な声が響き、落ち着きと充実感が感じられる毎日となっています。２学期も折り返しを迎え、学校生活はますます活気に満ちています。新人戦、合唱コンクール、駅伝大会など、部活動や行事を通して、生徒たちは仲間と協力し、挑戦し、達成する喜びを味わっていきます。一つひとつの経験が、生徒たちの心を豊かにし、確かな成長へとつながっていることを、私たち教職員も日々実感しています。また、学習面でも大きな節目の時期です。特に３年生は受験シーズンに向けて、定期テストや市学力テストを通して自分の理解度や現在地を確認し、志望校を選択する時期となります。次の目標に向かってそれぞれ努力を重ねる姿が見られ、朝早く登校して勉強する生徒や、休み時間の過ごし方を工夫している生徒もいます。３年生の皆さんには、結果だけに一喜一憂するのではなく、それまでの過程を大切にしながら、自分自身と向き合う力を育んでほしいと願っています。

さて、９月 13 日から 21 日までの９日間にわたり、「東京 2025 世界陸上」が開催されました。多くの方が白熱した競技に夢中になったことでしょう。私も、34 年前の 1991 年に東京で開催された世界陸上を、中学１年生の頃に北海道の自宅でテレビに夢中になって観ていたことを思い出しました。カール・ルイス選手の活躍は、今でも鮮明に記憶に残っています。今回の大会では、110m ハードルに出場した村武ラシッド選手の走りと、競技後のコメントが印象的でした。メダルを逃したことに対して、「何が足りなかったのか」「何が間違っていたのか」と語る姿に、アナウンサーも涙声になっていました。その後、中学時代の陸上部顧問の先生とのやり取りが放送され、先生は「何も間違っていないよ」と声を掛けていました。恩師と教え子の関係が垣間見え、そこに教育の根底があると感じました。教育を通して、スポーツを通して、人と人とが豊かな関係を築いていくことの尊さと素晴らしさを、改めて実感しました。

10 月は「実りの秋」とも言われます。自然の恵みだけでなく、子どもたちの努力の成果が少しずつ形になっていく、そんな実りの季節です。また、秋が深まるにつれて日照時間が短くなり、心の安定に関わる「セロトニン」の分泌が減少しやすくなると言われています。気分が沈みがちになることもあるこの季節だからこそ、十分な睡眠や栄養、適度な運動を心掛け、心身のバランスを整えることが大切です。生徒たちが健やかに過ごせるよう、学校でも生活リズムを意識した声掛けや取組を進めてまいります。

これから寒暖差が大きくなる季節です。体調管理に気を付けながら、子どもたちが健やかに、そして前向きに学校生活を送れるよう、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今月も、どうぞよろしくお願いいたします。